

よび神奈川県で発見. さやばね (N. S.), (21): 58.

齋藤琢巳・春沢圭太郎・初宿成彦 2016. 大阪府下における *Synona* 属テントウムシの記録. 月刊むし, (539): 46-47.

初宿成彦 2021. 大阪市立自然史博物館・外来生物調査プロジェクト (Project A) によるムネアカオオクロテントウ・ユーカーリハムシ・ヨツモンカメノコハムシの市民調査報告. 大阪市立自然史博物館研究報告, (75): 53-77.

吉田浩史 2019. 神戸市とその周辺における分布拡大中の昆虫についての調査記録. きべりはむし, 41(2): 32-35.

(Hiroshi YOSHIDA 神戸市東灘区)

神戸市内からのタケクマバチの記録

吉田浩史

はじめに

タケクマバチは、膜翅目ミツバチ科に属するハナバチの一種であり (多々内・村尾, 2014), 2006 年に愛知県及び岐阜県から初めて確認された外来種である (矢田, 2007).

筆者は、2020 年に本種を神戸市南東部の 3 ケ所で目撃・写真撮影した. ネット上の情報を検索した結果, 前年 2019 年の記録を発見したため, 記録者の許可を得てここに合わせて報告する.

なお, 本種の和名についてはタイワンタケクマバチが使われる事が多いが, 今回は松本・西本 (2020) の見解に従いタケクマバチを使用した.

生態等

本来はアジア大陸及び台湾に分布する (川添, 2019). 成虫は 4 ~ 9 月に出現し, 各種植物を訪花する (多々内・村尾, 2014).

日本国内では, 2006 年に愛知県及び岐阜県から記録 (矢田, 2007) された後, 東京・埼玉・静岡・長野・石川・福井・三重・滋賀・京都・奈良・大阪・兵庫・岡山・鳥取と, 関東地方から中国地方東部にかけて分布を拡大している (柴田, 2020).

兵庫県では, 大草伸治氏の私信として 2011 年に赤穂市で確認されたと記録されている (間野, 2012). その後, 尼崎市 (上森, 2018) 及び明石, 三木, 加古川の各市 (柴田, 2020) から記録されている. 神戸市においては 2015 年の時点で未記録 (神戸市, 2015) で, その後の記録もないようであった.

データ

膜翅目 ミツバチ科 タケクマバチ

Xylocopa tranquebororum tranquebororum (Swederus, 1787)

2 ♂ (目撃), 神戸市須磨区板宿町, alt.50m, 5. V. 2019, 山下雅司; 1 ♂ (写真 1), 神戸市須磨区大手, alt.60m, 5. V. 2019, 山下雅司; 1 ♂ (写真 2), シャリンバイ訪花, 神戸市灘区新在家北町, alt.5m, 8. V. 2020, 吉田浩史; 1 ♀ (目撃), デュランタ訪花, 神戸市東灘区岡本 (阪急岡本駅南側), alt.30m, 29. VII. 2020, 吉田浩史; 1 ♀ (目撃), 神戸市東灘区岡本 (阪急岡本駅北側), alt.35m, 6. IX. 2020, 吉田浩史.

2019 年には山下雅司氏により, 神戸市須磨区の 2 ケ所においてホバリング中のオス計 3 個体が確認された. うち 1 個体については, 山下氏が標本を保管している.

2020 年には筆者により, 灘区及び東灘区の市街地 3 ケ所において植栽を訪花中または飛翔中の個体が目撃された. いずれも確認当時捕虫網を持っていなかったため, 標本は残されていない.

このように神戸市の南西部から南東部にかけて複数の地点で確認されたことから, 2020 年の時点ですでに市内の広い範囲に生息している可能性が高いと考えられる.

謝辞

山下雅司氏にはデータ引用の許可のほか, 写真をご提供頂いた. 松本吏樹郎学芸員 (大阪市立自然史博物館) には文献情報をご教示頂いた. 河合正人氏には訪花植物



図1 タケクマバチ (オス) 標本写真 (山下雅司氏撮影).



図2 シャリンバイを訪花するタケクマバチ (オス) (筆者撮影).

についてご教示頂いた。ここに厚くお礼申し上げます。

○参考・引用文献

川添和英 2019. 本州中部に定着した外来種タイワンタケクマバチの遺伝子解析に基づく原産地の推定. なごやの生物多様性, 6: 29-31.

神戸市 2015. 神戸市動植物確認種リスト. 神戸市環境局環境保全部自然環境共生課. (http://www.city.kobe.lg.jp/life/recycle/biodiversity/rd/img/all_list.pdf).

間野隆裕 2012. タイワンタケクマバチ. 愛知県移入種データブック検討会 (編), 愛知県の移入動植物—ブルーデータブックあいち 2012: p.111. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

松本吏樹郎・西本大作 2020. 大阪府のタケクマバチ. Nature Study, 66(8): 2-3.

柴田剛 2020. 小野市と明石市でタイワンタケクマバチを確認. きべりはむし, 43(2): 55.

多々内修・村尾竜起 2014. 日本産ハナバチ図鑑. 479pp. 文一総合出版.

上森教慈 2018. 兵庫県尼崎市でタイワンタケクマバチを採集. きべりはむし, 41(1): 31.

矢田直樹 2007. 愛知県と岐阜県におけるタイワンクマバチの採集記録. 月刊むし, (439): 39-40.

(Hiroshi YOSHIDA 神戸市東灘区)

サトクダマキモドキの雌雄型と思われる奇形個体の採集記録

池田大

サトクダマキモドキ *Holochlora japonica* Brunner von Wattenwyl, 1878 の雌雄型 (雌雄モザイク) と思われる奇形個体を採集しているので報告しておく。

1ex., 兵庫県三田市福島 有馬富士公園, 25. VIII. 2018, 筆者採集, 保管 (図1・2)

当時, 三田市有馬富士自然学習センター (キッピー山のラボ) で勤務していた筆者は, 園内で生き物を観察しながら通勤していた。その道中, 翅の不自然なサトクダマキモドキを発見し, 違和感を覚えたため手に取って確認したところ奇形個体であると判明した次第である。

本個体は全体にメスの特徴が強く表れるが, 尾端部周辺において左右非対称となっている。左の尾肢は太く先端部が滑らかなメスの特徴であるのに対し, 右の尾肢は先端部が黒く尖るオスの特徴を有している。また左側の尾端部は一部奇形となっているがメスの産卵管と思し



図1 全形.

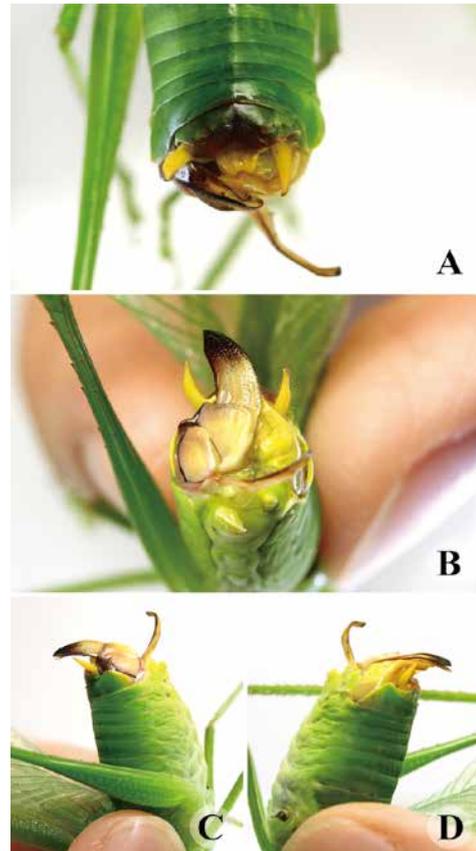


図2 尾端部 (A. 背面; B. 腹面; C. 左側面; D. 右側面).

き構造をしている。一方, 右側の尾端部はメスの産卵管に類似する形態をしているが, 通常とは異なる構造をしており, むしろ色はオスの尾端部突起で見られる色に近い。生殖下板については通常の状態をしておらず, 雌雄どちらの特徴も表れていない。なお, 腹部を解剖したところ卵が確認されたが, いびつな形をしていた。

以上より, 本個体はモザイク状に雌雄の形態が表れる雌雄型ではないかと推定されるが, メスの奇形個体である可能性も捨てきれないため, 本報告では断定を控えさせていただく。

(Hiroshi IKEDA 橿原市昆虫館)